

令和6年度 学力調査等について

1 調査について

	豊島区学力調査	子供たちが輝くクラスづくりのための 質問紙調査 (i-check)
目 的	豊島区立小・中学校の児童・生徒の学力及び学習状況を把握するとともに、教員の指導方法の改善に資することで、一層の学力向上を図る。	児童・生徒及び教員との人間関係を分析し、把握することで校内での学級づくりやいじめの早期発見及び不登校の未然防止に役立てる。
対 象	小学校第3学年から中学校第3学年	
教 科	小3 : 国語、算数 小4 : 国語、算数、理科 小5～中1 : 国語、社会、算数、理科 中2・中3 : 国語、社会、数学、理科、英語	
実施日	令和6年4月24日（水）～5月31日（金）のうち、学校が指定した日	

2 区学力調査の結果【平均正答率（％） 区平均正答率・全国平均正答率】

（ ）は全国との差

（1）小学校

	学年	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年
国語	区	76.3（+3.5）	74.6（+1.2）	71.0（+6.1）	72.0（+4.8）
	全国	72.8	73.4	64.9	67.2
社会	区			61.2（+1.1）	63.4（+0.6）
	全国			60.1	62.8
算数	区	80.7（+2.7）	75.6（+3.5）	68.5（+4.5）	66.2（+4.5）
	全国	78.0	72.1	64.0	61.7
理科	区		56.4（+1.2）	61.0（+0.3）	59.4（-0.9）
	全国		55.2	60.7	60.3

（2）中学校

	学年	中学校1年	中学校2年	中学校3年
国語	区	61.9（+0.6）	66.3（+1.2）	69.7（+1.8）
	全国	61.3	65.1	67.9
社会	区	47.6（-4.8）	50.5（+0.5）	51.5（-1.5）
	全国	52.4	50.0	53.0
数学	区	63.6（-0.8）	59.2（+4.5）	56.4（+5.6）
	全国	64.4	54.7	50.8
理科	区	61.2（-5.8）	54.0（-2.0）	49.5（-1.0）
	全国	67.0	56.0	50.5
英語	区		59.8（+7.1）	56.5（+5.6）
	全国		52.7	50.9

＊正答率
設問に対して
正答した児童・生徒の割合

(3) 課題となっている教科の観点別結果

①理科の結果

平均正答率 (%)

※全国と比較して、-0.1%~-1.1%

-2.1%

		小4		小5		小6		中1		中2		中3	
		区	全国	区	全国	区	全国	区	全国	区	全国	区	全国
観点	知識・技能	64.5	63	64.9	66.6	65.3	68.3	59.1	67	63	66.8	52.6	54.8
	思考・判断・表現	51.1	49.9	55	51.9	54.8	54.1	64.4	66.9	42.7	42.4	45.3	44.6
	態度	51.4	51.3	59.5	62.8	61.1	62.0	65.0	69.0	49.5	46.8	43.2	42.1

②社会の結果

平均正答率 (%)

※全国と比較して、-0.1%~-1.1%

-2.1%

		小5		小6		中1		中2		中3	
		区	全国	区	全国	区	全国	区	全国	区	全国
観点	知識・技能	60.2	58.0	66.9	65.7	50.0	55.6	54.3	54.4	50.2	53.8
	思考・判断・表現	63.2	64.2	57.8	58.4	40.4	42.9	45.6	44.2	52.8	52.0
	態度	60.3	55.9	59.8	59.6	38.3	39.4	42.2	39.7	43.3	43.1

(4) 学校訪問及び区学力調査の結果から

- ・国語、算数(数学)、英語についてはおおむねできている。
- ・理科・社会においては、基礎及び知識・理解において全国平均を下回っている項目が多い。
→一斉授業が多く、子どもたちの主体的な学びに結び付いていない。課題に対して解決策を考えたり、自分の言葉でまとめをしたりするなど、子どもたちが学んだ知識を活用して課題解決することで知識を確実なものにする必要がある。

3 i-checkの結果【肯定回答率(%)】

(1) 学習に関する設問について(全国より肯定的な回答が少なかった設問)

設問	小6		中3	
	区	全国	区	全国
自分なりにがんばったことを、先生が認めてくれて、うれしかったことがありますか。	79.6	82.6	84.7	80.9
先生はクラスのみんなのことを、ほめたり、はげましたりしてくれますか。	93.2	94.2	94.8	94.2
友だちの意見を聞いて新しいことに気づいたり、自分の考えが深められたりして、勉強って面白いと思うことがありますか。	64.8	66.5	70.8	65.9
クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。	62.7	63.0	63.7	63.1
クラスの多くの人や仲のいい友だちと意見がちがっても、自分が正しいと思ったことは、それを主張することができますか。	63.3	63.5	66.6	64.0
あなたは、学校生活の中で発言をするとき、他の人と同じ意見だった場合でも、自分なりに考えて発言していますか。	49.6	51.1	58.8	57.1

学校の授業では、友だちと教え合う時間がありますか。	89.1	91.0	91.7	89.6
学校の授業では、となり同士やグループで話し合ったり、討論したりすることがありますか。	89.4	89.5	94.9	89.6
グループで話し合う授業は楽しいですか。	84.3	86.0	87.9	85.4

(2) i-check の結果から

- ・話し合いや学び合い（協働的な学び）のよさを実感できていない児童がいる。
- ・授業において、自己肯定感・自己有用感が十分に育っていない。

4 授業改善推進プランについて

(1) 目的

各種調査の結果や日頃の学習の様子から課題を見だし、目指す子ども像の実現に向け、各教科の課題解決や、主体的・対話的で深い学びの視点から一単位時間の授業づくりの具体的な手だてを考え、実践につなげる。

(2) 内容

①授業改善推進プランの全体像

参考資料「としまっ子の学び」を踏まえ、教員が全員理解し、つかうことで授業改善を推進することを目的に令和5年度から作成) → (3)

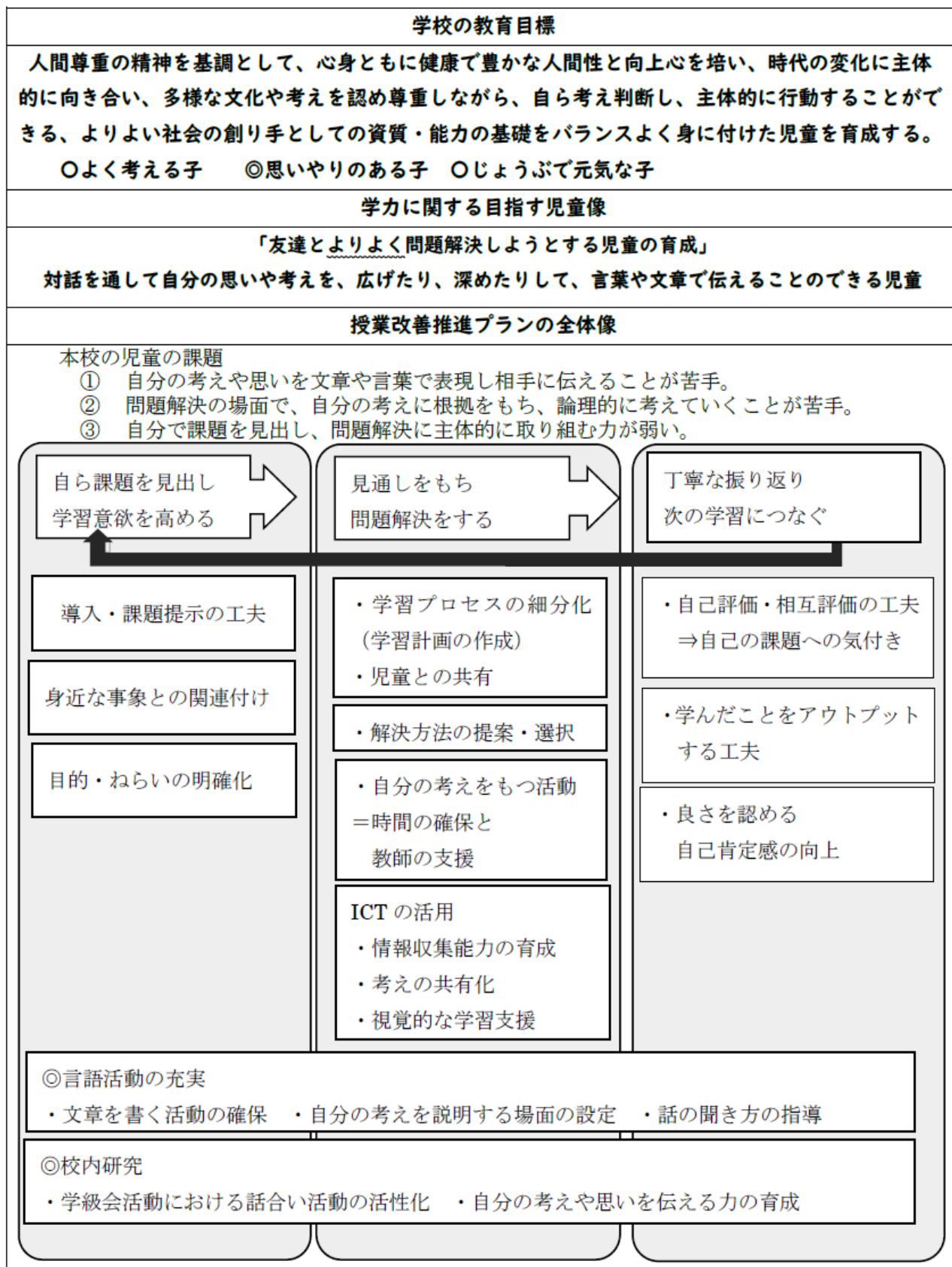
②目指す子ども像を基にした各教科での育てたい資質・能力

③現在の状況

④改善に向けた取組

} → (4)

(3) 授業改善推進プランの全体像例 (J 小学校)



(4) 各教科等

①授業づくりについて

	目指す児童・生徒像	授業改善推進プランの全体像
A 小学校	・勉強が好きな児童 ・生き生きと学びに向かい、思いを表現できる児童	○45分授業の充実 ・各教科における「としまっ子の学び」の流れを意識した授業展開 (1) めあて／課題の設定 身に付けさせたい力を明確にする。 (2) まとめ・振り返りの実施 何が身に付いたのかが分かる。 (3) 教師主導からの脱却 子供の発言をつなぐ。
B 小学校	・確かな学力と豊かな心を身に付けた児童 ・課題に対して自分の考えをもち、すすんで解決できる児童	○確かな学力の定着と豊かな個性を伸長する授業づくりの実現 ～個別最適な学び・協働的な学びの充実～ ・自分で自分の学習を調整し、課題解決を目指す。 「自分で決める」→「やってみる」→「振り返る」
C 中学校	・学ぶことに興味・関心をもち、主体的に学ぼうとする生徒 ・他者の考えと比較し、話し合うことで、違いや共通点を見だし、自らの取組をよりよいものにしようとする生徒 ・授業をとおして学んだことを、論理的に整理、定着させ、さらなる探究活動を行おうとする生徒 ・発信力の育成を通して、自信をもって自己表現しようとする生徒	○自己表現力を高める教育活動の実現～発信力の育成を通して～ ・伝える力(話す力・書く力等の表現力)を育成し、他者からの評価を受容する中で発信の場を設定し、成功体験を積みながら自信を育む。 (1) 発表の場を設け、自己表現の練習を行う。 (2) 成功体験を積み上げることにより自信をつける。 (3) 他者からの評価を受けることにより自己肯定感や自己有用感を高める。 ・教員が授業を振り返り、改善を行うため、「学期ごとの振り返りシート」を作成し、活用する。

②理科について

	目指す子ども像を基にした各教科での育てたい資質・能力	現在の状況	改善に向けた取組
D 小学校	・体験活動を重視し、問題解決のための実験や観察をすることで児童が主体的に考え、学習を深める力	・問題を把握して正しく結果を記録したり主体的に考察したりすることが難しい	・結果の記録の仕方を表や図で表すようにしたり、結果と考察の違いを明確にしたりする。
E 小学校	・自然の事物・現象の性質や働きについての理解を深めるとともに、観察・実験などをとおして、問題解決する力	・実験技術が十分に身に付いていない。	・タブレットで実験の様子を撮影し、正確に実験ができているかどうか振り返る。 ・「問題→予想(仮説)→手だて→実験→考察→結論」の課題解決の流れを定着させるため、板書を全校で統一する。
F 中学校	・知識としての学習ではなく、現象の原理を理解しようとする姿勢	・授業で習った内容をその時間中は理解しているが、知識の定着ができていない。	・繰り返し学習を通して、知識の定着を図る。また、単元末プリントなども活用し、アウトプットする場面も多くとり、生徒の実態を把握していく。

③社会について

	目指す子ども像を基にした 各教科での育てたい資質・能力	現在の状況	改善に向けた取組
G 小学校	・資料等から適切に事実を捉え、それを基にして話し合うことをとおして、多様な見方・考え方を働かせながら学習を進める力	・表やグラフなどの資料を正しく読み取ったりまとめたりすることに課題がある児童が多い。	・資料を読み取る視点を明確にし、読み取り方を身に付けさせる。他教科での学習とつなげながら資料活用の経験値を増やしていく。
H 小学校	・社会的な見方・考え方を働かせ、多角的に考察する力	・自力解決に適した資料の選択、必要な情報の読み取りに課題がある。 ・答えを先に追う傾向が強く、知識と社会的事象に結び付けて考える力が十分でない。	・学習問題作りに向けて資料を吟味し、提示方法を工夫する。 ・自分の考えがどの資料で根拠づけられるのかを意識させる問いかけを行い、資料活用能力を高める。
I 中学校	・自ら学び考える力、批判的思考と問題解決能力、他者との協働力	・活発に他者と協働して自力解決する力が備わってきている生徒も増えてきたが、対話を通した学びに苦手意識がある生徒も一定数いる。学力の二極化傾向が見られる。	・問題解決的な学習課題を設定して、他者と協働しながら学習する場面を設定して、批判的思考と問題解決能力を育成していく。

(4) 授業改善推進プランを生かす取組

指導課	学校
○10/17 教務主任研修 ・教務主任による授業改善推進プランを実効性のあるものにするための企画を検討する。 ○指導主事による学校訪問 ・授業視察をし、授業改善について管理職への指導・助言する。	○授業改善推進プランに基づく授業を実施する。 ○校内研究をとおした授業改善を継続して行う。 ○授業改善推進プランの振り返りを行い、次年度の教育課程編成に生かす。

5 今後の取組

- ・教師主導の講義型授業から、児童・生徒が主体的に学習を進める授業への転換を進めていく
- ・児童・生徒が学習内容に関心をもち、見通しをもって学習活動に取り組む中で、知識を活用しながら思考・判断・表現を繰り返す授業展開にする。
- ・めあてや見通しに基づいて振り返りを行い、学んだこと・身に付けたことを自覚する等をおして、児童・生徒の学力を高めていく。

→そのために、

- ・教育委員会では授業改善のための参考資料として作成した「としまっ子の学び」を指導課訪問、各種年次研修等で活用し、授業改善を進めていく。
- ・各校が作成した授業改善推進プランが実効的なものになるように指導・助言をする。



令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査日

令和6年4月18日(木)

(2) 調査内容

- ①教科に関する調査 小学校…国語、算数 中学校…国語、数学
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

(3) 調査対象児童・生徒

小学校第6学年・中学校第3学年の全児童・生徒(知的固定学級在籍児童・生徒を除く)

2 調査結果

(1) 教科に関する調査〔平均正答率(%) 全国、東京都ともに公立学校〕

【小学校(6年生)】

		区	都	全国	都比較	全国比較
国語	R6	73	70	67.7	+3 ポイント	+5.3 ポイント
	R5	72	69	67.2	+3 ポイント	+4.8 ポイント
算数	R6	71	68	63.6	+3 ポイント	+7.4 ポイント
	R5	70	67	62.5	+3 ポイント	+7.5 ポイント

【中学校(3年生)】

		区	都	全国	都比較	全国比較
国語	R6	63	61	58.1	+2 ポイント	+4.9 ポイント
	R5	72	72	69.8	±0 ポイント	+2.2 ポイント
数学	R6	57	57	52.5	±0 ポイント	+4.5 ポイント
	R5	54	54	51.0	±0 ポイント	+3.0 ポイント

小・中学校ともに全国の正答率を上回っている。

小学校では、国語、算数ともに東京都の平均正答率を3ポイント上回っている。

中学校では、国語で東京都の平均正答率を2ポイント上回り、数学では同等である。数学「図形」「関数」の問題では、東京都の平均正答率を0.3ポイント下回っていた。

東京都や全国の調査結果と比較して、豊島区の児童・生徒には、概ね国語と算数・数学の学力が身に付いていると考えられる。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

①児童・生徒質問紙調査〔肯定的回答率(%) 全国、東京都ともに公立学校〕

Q.5年生までに(小学校)、1、2年生のときに(中学校)受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【小学校(6年生)】

区	都	全国	都比較	全国比較
77.0	81.8	81.9	-4.8 ポイント	-4.9 ポイント

【中学校(3年生)】

区	都	全国	都比較	全国比較
74.7	80.6	80.3	-5.9 ポイント	-5.6 ポイント

Q.5年生までに(小学校)、1、2年生のときに(中学校)受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

【小学校(6年生)】

区	都	全国	都比較	全国比較
78.4	80.1	79.6	-1.7 ポイント	-1.2 ポイント

【中学校(3年生)】

区	都	全国	都比較	全国比較
72.5	76.2	75.4	-3.7 ポイント	-2.9 ポイント

②学校質問紙調査

Q.調査対象学年の児童・生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていますか。

【小学校】

区	都	全国	都比較	全国比較
77.2	70.9	61.2	+6.3 ポイント	+16.0 ポイント

【中学校】

区	都	全国	都比較	全国比較
50.0	63.3	55.3	-13.3 ポイント	-5.3 ポイント

Q. 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

【小学校】

区	都	全国	都比較	全国比較
86.4	88	87.1	-1.6 ポイント	-0.7 ポイント

【中学校】

区	都	全国	都比較	全国比較
100	83.7	86.6	+16.3 ポイント	+13.4 ポイント

授業における主体的な学びについての児童・生徒の肯定的な回答率は、東京都、全国と比べると低い。

小学校では、児童が学習課題や学習計画について見通しをもって学ぶ授業改善が進められているが、学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動については、さらに充実させることが必要であると考えられる。

中学校では、学校は探究的な学習過程を見通した指導方法の改善に努めているものの、生徒目線では、生徒主体の授業作りが十分に行われていないことが考えられる。

3 学校への指導

本区の児童・生徒は、国語と算数・数学の学力が概ね身に付いていると考えられる。基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、思考力・判断力・表現力を育成する授業の工夫を継続するとともに、児童・生徒の主体的な学びを充実させていくことで、児童・生徒の資質・能力をより伸ばすことができると考える。

そのため、令和5年度に作成した授業改善のための参考資料「としまっ子の学び」を活用し、各種研修や学校訪問の際に、めあてとまとめを一体化した授業作り及び教師主導の授業から脱却した子ども主体の授業の実現に向けて、指導・助言を継続して行っていく。